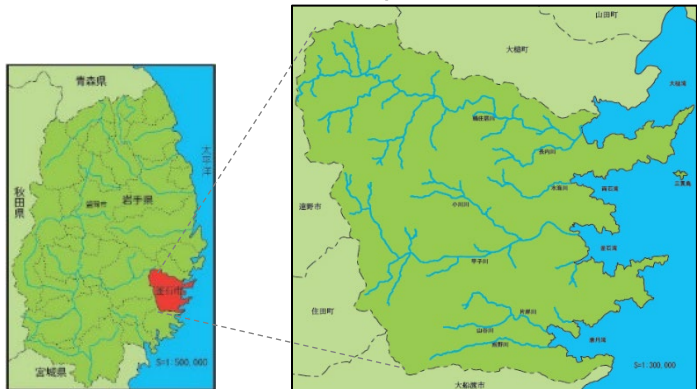


# 03 釜石市文化財保存活用地域計画【岩手県】

【計画期間】 令和6～11年度（6年間）  
 【面積】 440.34km<sup>2</sup>  
 【人口】 約2.9万人

【関連計画等】 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」（H27年7月）、三陸ジオパーク（日本ジオパーク、H25年9月）



## ≪歴史文化の全体像≫

### 『自然・人・鉄の歴史文化が融合したまち 釜石』

釜石市は、豊かな自然に恵まれ、往古からの人々の交流や文化が根付き、鉄を起点として近代化を成し遂げたまちであり、自然・人・鉄の3つの要素が融合して、いまの釜石の多様な文化が形づくられている。

## ≪歴史文化の特徴≫

### ① 『リアス海岸と北上山地の自然のめぐみと摂理』

釜石市は、北上山地から続く森林に囲まれ、太平洋を臨むリアス海岸など、豊かな自然景観が魅力であり、様々な自然のめぐみは人々の生活を豊かにしている。釜石市の人々は、山や海といった豊富な自然からの恩恵を受けながら暮らしてきており、鉄鉱石を中心とした鉱物資源は、釜石の産業基盤の礎となった。一方で豊かな自然は津波などの災害をもたらす存在ともなっている。我々は、自然の摂理に従いながらも、自然への感謝と畏怖といった祈りを生み出した。釜石市はこうした自然と人々がつながる歴史文化が育まれてきた。

### ② 『峠を越え 海を渡る人々の営み』

釜石市は、製鉄業だけでなく、漁業や海運、陸運などが盛んで、農業や林業なども長い歴史を持っている。往古からの人々の営みは、江戸時代には盛岡藩や仙台藩の御番所によって統制されながらも、峠を越える道、海を渡る航路を通じて人々は盛んに交流した。こうした背景をもとに、現在も継承される伝統や文化、産業は釜石市民にとって誇るべき歴史文化となっている。

### ③ 『鉄と近代化によってもたらされたエネルギー』

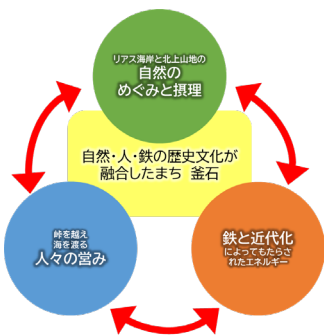
釜石市は、幕末に西洋式の高炉による製鉄が成功したことで、日本の近代製鉄発祥の地となった。その背景には、古代から続く鉄づくりの伝統があった。明治に入ると日本初の官営製鉄所が設置され、その後は日本を代表する重工業都市の1つとして栄え、釜石の人々の生活は大きく変容することとなった。鉄と近代化のエネルギーは、今の釜石を形作る起爆剤であり、現在もその影響を大きく受けている。

## 指定等文化財件数一覧（令和6年3月現在）

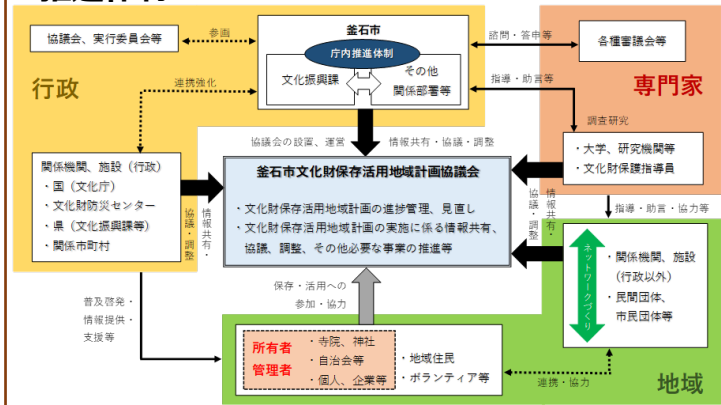
類型	国		県		市指定	総計	
	指定・選定	登録	指定	指定			
有形文化財	建造物	0	1	0	1	2	
	美術工芸品	絵画	0	0	0	0	0
		彫刻	0	0	1	1	2
		工芸品	0	0	1	13	14
		書跡・典籍	0	0	0	4	4
		古文書	0	0	0	3	3
		考古資料	0	0	0	1	1
		歴史資料	0	0	2	7	9
無形文化財	0	0	0	0	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	3	3	
	無形の民俗文化財	0	0	1	13	14	
記念物	遺跡(史跡)	2	0	1	10	13	
	名勝地(名勝)	0	0	0	1	1	
	動物、植物、地質鉱物(天然記念物)	1	0	0	9	10	
文化的景観	0	—	—	—	0		
伝統的建造物群	0	—	—	—	0		
合計	3	1	6	66	76		

指定等文化財は、76件  
 未指定文化財と地域資産（歴史文化遺産）は、10,831件把握

## ≪歴史文化の特徴概念図≫



## ≪推進体制≫



# 【将来像】 歴史文化をいかし未来をつくるまち 釜石

将来像

方向性

保存と活用に関する課題

保存と活用に関する方針

保存と活用に関する措置の例

方向性1

歴史文化をしっかりと、未来につなぐ

- 課題1 歴史文化遺産の把握に関する課題
- 歴史文化遺産の把握調査の情報が古く、新しい歴史文化リスト作成が必要となっている等
- 課題2 歴史文化遺産の調査・研究に関する課題
- 歴史文化遺産の調査記録のないまま滅失や破損が進んでいる等
- 課題3 歴史文化遺産の保存・管理・継承に関する課題
- 歴史文化遺産の滅失や散逸が懸念される
  - 歴史文化遺産の劣化・損傷がみられるが現状維持に留まっている
  - 郷土芸能の担い手不足が進んでいる
  - 所有者の負担が大きく十分な支援制度が整っていない等
- 課題4 歴史文化遺産の防災・防犯に関する課題
- 災害発生時や被災後の官民連携体制が不十分である等

- 方針1 歴史文化遺産の把握調査の推進
- 歴史文化遺産の把握調査の偏りを解消する 等
- 方針2 歴史文化の調査・研究の推進
- 歴史文化遺産の写真や映像、法量等の記録をとり、修復や復原に役立てる
  - 歴史文化遺産の詳細な調査・研究を行う 等
- 方針3 歴史文化遺産の適切な保存・管理・継承の推進
- 歴史文化遺産の定期的な現状確認を行う
  - 歴史文化遺産をデジタルアーカイブで記録保存し利用価値を高める
  - 郷土芸能の映像等による記録保存を行う
  - 歴史文化遺産の管理への支援制度を検討する 等
- 方針4 歴史文化遺産の防災・防犯対策の推進
- 災害発生時や被災後の官民連携体制を充実させる等

方向性2

歴史文化を学び、活かし、発信する

- 課題1 歴史文化を学びに活かすための課題
- 子どもたちに知ってもらいたい歴史文化遺産が明確になっていない等
- 課題2 歴史文化を観光やまちづくりに活かすための課題
- 歴史文化の魅力や観光や産業に活かされていない
  - 外部から評価の高い歴史文化の魅力が地元で認識されていない等
- 課題3 歴史文化の情報発信に関する課題
- 歴史文化に関する看板に統一性がなくタイムリーな情報発信が十分ではない
  - 歴史文化に関するパンフレット等が少なく位置情報等の情報が十分ではない 等
- 課題4 歴史文化の公開施設に関する課題
- 歴史文化を公開する施設が博物館の基準を満たしておらず、展示公開に限界がある 等

- 方針1 学校教育や生涯学習との連携の推進
- 子どもや地域の人々に向けて歴史文化に関する各種パンフレットを充実させる
  - 学校教育で使用される社会科副読本への情報提供を行う
  - 学校教育と生涯学習との連携を推進する
  - 地元学などの地元密着型のイベントや講座を開催し、参加者の偏りを解消する 等
- 方針2 歴史文化の魅力や観光やまちづくりに活かす
- 歴史文化の魅力や観光や産業に活用する 等
- 方針3 ICT等を活用した情報発信の推進
- 歴史文化に関する看板の統一を図る
  - ICTを利用したタイムリーな情報発信等の情報発信環境を整備する
  - 歴史文化に関するパンフレットの更新を行い位置情報等を発信する 等
- 方針4 歴史文化遺産の展示公開環境の充実
- 歴史文化を展示公開する施設の充実を図る
  - 博物館の基準を満たす施設への更新等を検討する等

方向性3

歴史文化を守り、活かす、しくみをつくる

- 課題1 歴史文化を守り活かす人材の課題
- 歴史文化を守り生かす人材が不足している
  - 歴史文化に触れる機会が減少している
  - 行政と地域が連携する体制が構築できていない 等
- 課題2 歴史文化を守り活かす連携の課題
- 市内の関係課や関連機関とのより密接な連携が求められている
- 課題3 歴史文化を守り活かす組織の課題
- 歴史文化遺産の担当者の専門性に偏りがある
  - 歴史文化遺産の継続的な調査の継承に不安がある
  - 歴史文化の専門的な知識や技術等の継承に不安がある等

- 方針1 歴史文化を守り活かす人材の育成
- 歴史文化に触れる機会を創出する
  - 地域住民自らが歴史文化を支える担い手となるよう人材育成を行う 等
- 方針2 歴史文化を守り活かす連携体制の構築
- 市内の関係課や関連機関とのより密接な連携体制を構築する
- 方針3 歴史文化を守り活かす組織の構築
- 歴史文化遺産の専門的な知識や技術等を継承する
  - 歴史文化遺産の担当者の専門性の偏りを解消する等

## ① 歴史文化遺産の把握調査

歴史文化遺産の把握調査（建造物、美術工芸品、民俗文化財、食文化、遺跡（史跡）、動物・植物・地質鉱物（天然記念物）、近代化遺産、地名、方言など）を実施することで市内の歴史文化を把握し、活用のための基礎資料を作成する。

□行政・専門家 □R6~11



## ⑮ 郷土芸能やまつりなどの映像化

文字記録に残すことの難しい郷土芸能やまつりなどを映像によって保存を行う。

□行政・所有者・管理者 □R6~11



## ⑳ 鉄づくり体験事業

鉄に関する歴史やモノづくりを体験するため、市内中学1年生全員が鉄づくり体験を行う。

□行政 □R6~11



## ㉘ 歴史文化案内板等の設置

統一感のある案内板や標柱を設置し、歴史文化の周知を図る。

□行政 □R6~11



## ㉜ 展示公開施設の充実

郷土資料館や鉄の歴史館など展示公開施設の環境を整備する。

□行政 □R6~11



## ㉟ 公開講座の開催

歴史文化に関する公開講座を行い、歴史文化を守り活かす人材の育成を行う。

□行政 □R6~11



## ㉫ 専門機関との連携体制

多分野にわたる歴史文化の専門的知見をえるため、大学や博物館等の研究機関との連携体制を構築する。

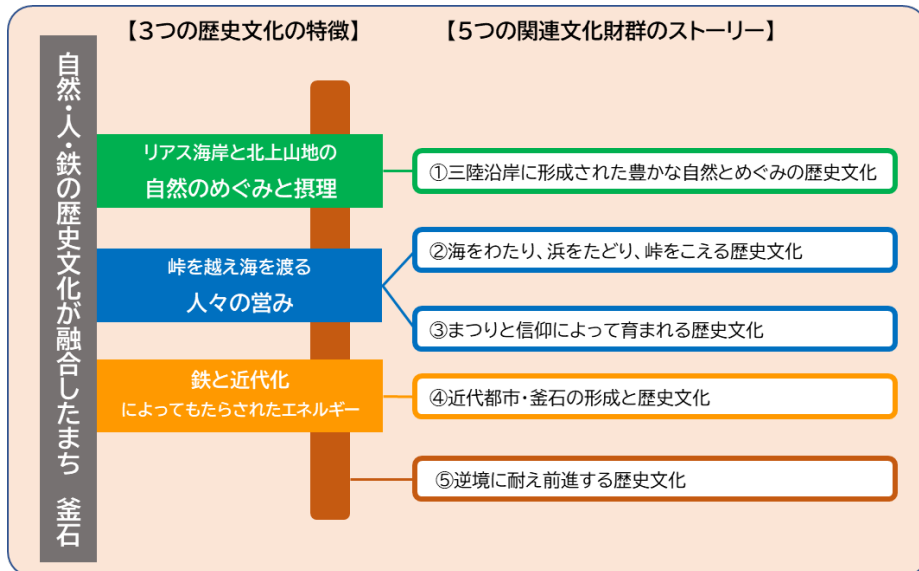
□行政・専門家 □R6~11



## 釜石市の関連文化財群について

### ◀関連文化財群の設定と考え方▶

釜石市の歴史文化の全体像『自然・人・鉄の歴史文化が融合したまち 釜石』と、3つの歴史文化の特徴、『リアス海岸と北上山地の自然のめぐみと摂理』、『峠を越え海を渡る人々の営み』、『鉄と近代化によってもたらされたエネルギー』を基本とし、抽出された相互に関連する文化財をテーマ毎に群として捉え、ストーリーを構築したものを関連文化財群として、5つのストーリーを設定した。



①三陸沿岸に形成された豊かな自然とめぐみの歴史文化  
 ②海をわたり、浜をたどり、峠をこえる歴史文化  
 ③まつりと信仰によって育まれる歴史文化  
 ④近代都市・釜石の形成と歴史文化  
 ⑤逆境に耐え前進する歴史文化

## 5つの関連文化財群のストーリー

### ① 三陸沿岸に形成された豊かな自然とめぐみの歴史文化

北上山地と太平洋の豊かな自然は、地震・津波や風水害といった災害をもたらすものの、風光明媚な風景や、海の幸、山の幸、鉱物資源などの恩恵を我々に与えてくれる。こうした自然の恵みに焦点を当ててストーリーを探り、「三陸沿岸に形成された豊かな自然とめぐみの歴史文化」として関連する文化財群をまとめた。

### ② 海をわたり、浜をたどり、峠をこえる歴史文化

釜石市は、先史時代からの遺跡が多数所在し、出土遺物から他地域との盛んな交流を見て取れる。また、古代・中世の境界、近世の藩境といった支配区域の分断があったものの、人々の交流は絶えることはなかった。このような人々の交流を示す資料や、暮らしの中みられる生活文化をストーリーとして、「海をわたり、浜をたどり、峠をこえる歴史文化」として関連する文化財群をまとめた。

### ③ まつりと信仰によって育まれる歴史文化

かつて厳しい生活を送ってきた人々にとって、「芸能」を通して「祭礼」に関わり、「まつり」を共にすることは必須のことであった。「まつり」の背景に「信仰」がある。「まつり」は信仰を支え、暮らしに潤いをもたらし、共同体の意識を確認する場であり行為となった。釜石市でも古くから町や村、集落においてお寺や神社、石碑等が建立され、人々は集い行事が執り行われてきた。信仰等の背景にあるストーリーを探り、「まつりと信仰に育まれる歴史文化」として、関連する文化財群をまとめた。

### ④ 近代都市・釜石の形成と歴史文化

釜石周辺では、古代から近世まで製鉄や鍛冶による鉄の生産が行われてきた。幕末には盛岡藩士大島高任によって西洋式の高炉が建設され、我が国の製鉄史に新たな画期を生み出した。明治には我国初の官営製鉄所が釜石に設置されたことで、鉄道や港湾の整備など近代都市・釜石を生み出した。高炉の火は消えたが、市内各所に痕跡をたどることができる。そうした鉄生産や近代化の背景にあるストーリーを探り、「近代都市・釜石の形成と歴史文化」として、関連する文化財群をまとめた。

### ⑤ 逆境に耐え前進する歴史文化

釜石市は、記憶に新しい東日本大震災など、過去に幾度も津波に襲われてきたものの、確実に復興を進め立ち上がってきた。江戸時代には盛岡藩の圧政に対して広域にわたる一揆を起こして困難を乗り越え歩んできた。太平洋戦争では二度の艦砲射撃を受けたが街を再建した。釜石の人々は何事にも屈せず前進する精神を先人から受け継いでいる。このような困難を乗り越え歩んできた人々の背景にあるストーリーを探り、「逆境に耐え前進する歴史文化」として、関連する文化財群をまとめた。

# 【関連文化財群④】近代都市・釜石の形成と歴史文化

## 概要

釜石周辺では、古代から近世まで製鉄や鍛冶による鉄の生産が行われてきた。幕末には盛岡藩士大島高任によって西洋式の高炉が建設され、我が国の製鉄史に新たな画期を生み出した。明治には我が国初の官営製鉄所が釜石に設置されたことで、鉄道や港湾の整備など近代都市・釜石を生み出した。高炉の火は消えたが、市内各所に痕跡をたどることができる。そうした鉄生産や近代化の背景にあるストーリーを探り、「近代都市・釜石の形成と歴史文化」として、関連する文化財群をまとめた。

釜石地域を含む三陸沿岸では、古代から製鉄が盛んに行われており、近世に入ると鉄山が操業されてきた。江戸時代末期には、盛岡藩士・大島総左衛門（のちの高任）が大橋の地で、安政4年12月1日（西暦1858年1月15日）に、日本ではじめて商用を目的とした高炉による鉄の連続出鉄に成功した。この成功を契機に、幕末から明治にかけて、釜石市周辺には多数の高炉が建設される。中でも、現存する最古の高炉「橋野高炉跡 [国史跡]」は、採掘場や運搬路を含める「橋野鉄鉱山」として世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の1つとなった。釜石の製鉄の歴史は、我が国の近代産業の歴史でもある。

## 構成文化財



## 関連文化財群に関する課題

- ・橋野鉄鉱山や旧釜石鉱山事務所などの調査研究を、視点を広げて進める必要がある。
- ・一大工業・鉱業地帯であった釜石を支える人々の生活文化について、調査記録等が少ない状況にある。
- ・学校や公民館等で鉄づくり体験や出前講座を、橋野鉄鉱山や鉄の歴史館でその魅力の発信をさらに進める必要がある。

## 関連文化財群に関する方針

- ・「橋野鉄鉱山の保存・整備・活用に関する計画」を基に橋野鉄鉱山の保存・活用を進める。
- ・近代化産業遺産群や各施設で所蔵する資料について調査研究を進める。
- ・釜石の鉄づくりを支えた人々の生活文化について調査・研究を進める。
- ・鉄の歴史文化を学ぶの機会創出や、来訪者に向けたその魅力の発信を行う。

## 関連文化財群に関する主な措置

- 橋野鉄鉱山の保存・活用の充実**  
国史跡橋野高炉跡、世界遺産の構成資産である橋野鉄鉱山に付随する計画に基づき保存・活用を行う。 □行政・専門家 □R6~11
- 鉄づくり体験事業の実施**  
釜石市内中学校1年生全員を対象に鉄づくり体験を実施することで、鉄のまち釜石のアイデンティティを育てる。 □行政・専門家 □R6~11
- 展示公開施設の充実**  
釜石市郷土資料館、鉄の歴史館、旧釜石鉱山事務所、橋野インフォメーションセンター等の充実を図る。 □行政・専門家 □R6~11
- 来訪者にやさしい環境づくり**  
鉄と近代化によってもたらされた歴史文化を市内外に活用するため、保存活用区域を設定し、来訪者にやさしい環境づくりを行う。 □行政・専門家 □R6~11